

東地区管内のふじの開花は薬師堂で4/27、狼森・森山で4/28、駒木で4/30、碓ヶ関（古懸）で4/29に確認されました。園地によってバラつきが見られるものの平年より約10日程度早い状況です。気象庁による1か月予報では、引き続き平均気温は平年より高い予報となっているため、園地の状況をよく確認して、作業を進めるようにしましょう。

1. ふじの生態

( )は予想です。

区分	地域	年度	展葉日	開花日	満開日
JA 生育観測圃	薬師堂	本年	4/11	4/27	5/1
	狼森		4/12	4/28	5/2
	森山		4/12	4/28	(5/3)
	駒木		4/13	4/30	(5/5)
	碓ヶ関（古懸）		4/12	4/29	(5/4)
りんご研究所	黒石市	本年	4/11	4/27	—
		平年	4/18	5/7	5/12

2. 薬剤散布 → 10日間の散布間隔と降雨前散布に努めましょう。

散布回数 散布時期	10a 当たり 散布量	基準薬剤	倍数	1,000ℓ 当たりの薬量
第2回目 開花直前	320ℓ	カナメ（F） カスケード（乳）	4,000倍 4,000倍	1本（250ml） 1本（250ml）
第3回目 落花直後	350ℓ	ミギワ20（F） チオノック（F） カスケード（乳）	4,000倍 500倍 4,000倍	2本（125ml×2本） 1本（2L） 1本（250ml）
<u>5月中旬頃 ~</u>		<u>コンフューザーR （50本/1袋）</u>	<u>100本/10a</u>	
第4回目 落花10日後頃	420ℓ	ユニックス（顆粒水） ジマンダイセン（水） クレフノン（水）	2,000倍 600倍 100倍	1袋（500g） 1袋（1.67kg） 1袋（10kg）
第5回目 落花20日後頃	420ℓ	デラン（F） ダイアジノン（水） クレフノン（水）	1,500倍 1,000倍 100倍	2本（333ml×2） 2袋（500g×2） 1袋（10kg）

コンフューザーR  
の設置

昨年、リンゴコカクモンハマキやモモシンクイガの被害果が見られている園地では、コンフューザーRを設置しましょう。5月中旬頃～5月下旬頃に設置し、次世代の密度低下に努めましょう。

○ 結実確保対策 ○

本年は生育が早く、凍霜害のリスクが高まっています。また近年、園地によってカラマツなどが見られています。特にふじの単植園や授粉樹の少ない園地、花芽の少ない園地では、マメコバチの管理を改めて徹底するとともに積極的に人工授粉を行い、結実確保に努めるようにしましょう。

めしべの受精能力は、開花後4～5日程度あるので、降雨で葯が褐変した花でも授粉するようにしましょう。

3. 摘果について → つがるや黄色品種は早めに！

- (1) 生育期間の短いつがるや、成らせ過ぎの傾向がある黄色品種については、『早く強い』摘果が重要となります。
- (2) 果実形質の良さあしが判然としない「落花 10～15 日後頃」までは一つ成り摘果を行いましょう。判別が可能になった時点で、仕上げ摘果へ切り替えましょう。

4. 摘果剤について → 生態が早く進んでいることから、散布タイミングを逃さないように！

- (1) 摘果剤マイクロデナポンの効果を最大限発揮させるため、散布量は350L以上たっぷり散布しましょう。
- (2) 効果は散布7～10日後から見え、中心果と側果の大きさに差があるほど効果が高まります。なお、極端な乾燥時や樹勢の弱い樹には、散布を控えてください。

使用方法	品種ごとの散布適期	散布目安	備考
マイクロデナポン水和剤 1,200倍 350ℓ以上/10a 展着剤を加用	ふじ 8～10mm 王林 12mm	5/15頃～	•ふじ、王林では、満開2週間後が散布適期の目安です。 •つる割れ防止（ヒオモン3,000倍）を使用する方は摘果剤散布から2週間あけましょう。